

平成22年度

# 施政方針・主な事業

将来像づくりがスタート



高野市長が、3月市議会定例会の冒頭で発表した平成22年度施政方針（要旨）をお知らせします。

## はじめに

昨年12月に大幅な計画的歳出削減と、佐渡の強みを活かした産業振興を目指す成長力強化戦略を核とした「佐渡市将来ビジョン」を策定しました。まず、歳出の削減は、人件費や物件費の削減など徹底した行政改革を進めます。

一方、成長力強化においては、農林水産業と他の産業との連携により、豊かな自然の恵みを活かした産業おこしと地域資源を活かした魅力あるにぎわいの島づくりのための観光等交流人口の拡大を図ります。

あわせて、これらを支える基盤として、市民の安全・安心・利便性の確保や産業活性化、交流人口の拡大等のための交通インフラの整備に取り組みます。さらには、過疎化や少子・高齢化に対応できる安全・安心の地域づくりを進めます。また、大学等との連携の

もと産業横断的、客観的視点をもった人材の育成に努めます。

離島の優位性を最大限に活かし、将来ビジョンに沿った取組みを、一歩一歩着実に実行することにより、にぎわいの島づくりの実現を目指して全力を尽くします。

## 【1】農林水産業の振興

### （1）経営の安定化

「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」のブランド化の成功により、所得の向上に一定の成果を上げることができました。本年度はさらにブランド化を進め、再生産可能な環境負荷の少ない栽培の定着のため、佐渡版所得補償制度を創設し経営の安定を図ります。



### （2）生物多様性を基本とした販売戦略

豊かな環境とトキとの共生を核とした生物多様性保全、環境再生を農林水産の分野で推進することで、農林水産物のブランド化を目指し、販売力の向上を図ります。

本年10月に、名古屋市において生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されます。その自治体会議に参加し、本市で取り組むトキをシンボルとした文化および経済とのつながりも含めた生態系再生の取組みを全国に情報発信をし、佐渡産品の販売拡大を図ります。

首都圏、京阪神等の大都市を中心に、佐渡産品の知名度アップと新たな販路の拡大を目指すイベントを実施します。また、販売のみならず佐渡全体を発信することにより、観光への波及を視野に入れた取組みとします。